

美 里 地 区 (第 1 回)

【開催日時】 平成25年12月25日(水)

18:00~20:00

【開催場所】 豊田市生涯学習センター 美里交流館

1F 多目的ホール

【参加者】

区 分	内 訳	人 数
地区住民	自治区長 等	10名
	民生児童委員	6名
	コミュニティ会議	2名
	ボランティア	1名
	地域包括支援センター	2名
	地元市議会議員	2名
小 計 (①)		23名
事務局	地域福祉活動計画策定委員	2名
	社協職員 等	9名
小 計 (②)		11名
総 合 計 (①+②)		34名

【福祉学習】

テーマ「住民が主役となった地域福祉活動の展開に向けて」
 説明：地域福祉活動計画策定委員 阪野 貢 氏



【懇談での意見】 3班に分かれて地域の実情を住民相互で確認する

	(1) 私たちが住んでいる「まち」の 安全・安心なところ、自慢できるところ	(2) 普段の暮らしの中で、私にとっての 心配ごと、悩みごと、困りごと
1 班	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもが元気 <ul style="list-style-type: none"> ・美里中生が積極的にV活動を実施している ・声かけがしっかりできる生徒が多い ●高齢者の「行き場所」が確保されている <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブの活動が盛ん ・高齢者が気軽に集える喫茶店がある ●地域が元気 <ul style="list-style-type: none"> ・自治区が実施する各種行事への参加率が高い ・住民相互のふれあいの機会が多い ●安全、安心が感じられる <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人が私を知ってくれている ・地域の中に、防犯灯が行き届いている 	<ul style="list-style-type: none"> ●各種団体の役員のなり手が無い <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の役員不足→子どもを加入させない親 ・区の役員にならない→自治区への未加入 ●マナーが守られていない <ul style="list-style-type: none"> ・犬のフンの始末をしない人が多い ・ゴミ出しルールが守られていない ●住民相互の交流ができていない <ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流の機会がない ・万一の時に支え合う気運に欠けている ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人、シングルマザーが増加してきている ・歩道が狭すぎる
2 班	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが素直である <ul style="list-style-type: none"> ・中学生のボランティア活動が盛ん ・子どもたちが登下校時に挨拶できる ●近所付き合いが自然にできている <ul style="list-style-type: none"> ・組単位で懇親会が実施できている ●高齢者にとって優しいまちだ <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい会食会が定期的に行われている ・老人クラブの活動が活発に行われている ・交通の便が良い ●自治区ごとの地域活動が盛んに実施されている <ul style="list-style-type: none"> ・夜間パトロールが住民参加で行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ●住民としてのマナーが守られていない <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出し、ポイ捨て、分別、区費の未払 ●住民相互のコミュニケーション、交流不足 <ul style="list-style-type: none"> ・行事への参加意識が低い(組ごとに意識の相違) ・世代間の交流ができていない(子供と高齢者) ・地元の商店が消えた! ●住民の高齢化 <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者、老夫婦世帯の増 ●住環境の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・車道は良いが、歩道が整備されていない ・表札の出していない家が増えた
3 班	<ul style="list-style-type: none"> ●組(向こう三軒両隣り)が優しい <ul style="list-style-type: none"> ・新しい住民が気軽に地域に溶け込める ・隣近所同士で、あいさつが普通にできる ・2世帯の家族が多い ●人と人のつながりが良い <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが多い ・ふれあいサロンが実施されている ・老人クラブの活動が盛んに行われている ・中学生が気持ちの良いあいさつができる ●地域活動が盛んに行われている <ul style="list-style-type: none"> ・防犯活動や交流館での朝市が実施されている 	<ul style="list-style-type: none"> ●老いていくことに対する不安 <ul style="list-style-type: none"> ・居場所がない、住民に自覚がない、孤独死が発生したらどうしよう・・・ ●支え合いの気運が少ない(・・・養われていない) <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に参加する人が少ない ・役員等のなり手がなく、人に任せっきり ●見守り役の人不足 <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、主任児童委員の人数不足 ●住民層の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人が多くなってきて、コミュニケーションをとることに不自由を感じる
<div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>		

足 助 地 区 （第 1 回）

【開催日時】 平成26年 2月25日（火）
13:30～15:45

【開催場所】 豊田市社会福祉協議会 足助支所（まめだ館）

【参加者】

区 分	内 訳	人 数
地区住民	自治区長・役員等	4名
	民生児童委員	5名
	コミュニティ会議・地域会議	3名
	老人クラブ会員	1名
	学校（教員1、生徒5）	6名
	障がい者団体	1名
	福祉施設	1名
	地域包括支援センター	1名
	交流館職員 その他（地元の学識者）	1名
小 計 (①)	24名	
事務局	地域福祉活動計画策定委員	1名
	社協職員等	5名
小 計 (②)	6名	
総 合 計 (①+②)	30名	

【福祉学習】
 テーマ「住民が主役となった地域福祉活動の展開に向けて」
 説明：地域福祉活動計画策定委員 阪野 貢 氏



【懇談での意見】 4班に分かれて地域の実情を住民相互で確認する

	(1) 私たちが住んでいる「まち」の 安全・安心なところ、自慢できるところ	(2) 普段の暮らしの中で、私にとっての 心配ごと、悩みごと、困りごと
A 班	<ul style="list-style-type: none"> ●人と人のつながりができている <ul style="list-style-type: none"> ・何かあった時に助け合える ・人と人のつながりが深く強い ・隣近所の人たちとの良いつながりがある ・皆さんと話ができる ●子どもに関して・・・ <ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒が素直である ・暗くまで遊んでいると、地域の方が呼びかけてくれる ・子どもたちが、すれ違った人に挨拶ができる ●自然、文化があるまち <ul style="list-style-type: none"> ・街並みが美しい、歴史文化が豊か、祭りが盛ん 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者問題 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のやることがない ・認知症などで、諸々のことに関心が薄れる ・高齢者の買い物が困難 ●少子化問題 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少なくなって、小学校の統廃合が進む ●生活環境 <ul style="list-style-type: none"> ・働く所がない ・空き家が増え、田畑が荒れる（後継者不足） ・「・・・だから」と生き方を決め付けてしまう ●交通の便が悪い <ul style="list-style-type: none"> ・道路狭い、坂が多い
B 班	<ul style="list-style-type: none"> ●郷土愛がある <ul style="list-style-type: none"> ・自然を大切にしながら、住民が活動している ●近所同士のつながりが強い <ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りで、人と人のつながりがある ・「地区名と名前」を言うと、皆が分かり合える ●住環境（風土・生活環境） <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数は少ないが、全員元気である ・やることが多く、充実している ・市の施策により定住者が増えた（8世帯） ・おいでんバスを利用することにより、交流の場までの移動手段が楽になった 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者問題・介護問題 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯が多い（若い者が地区外に転出してしまい、高齢者が取り残されてしまう） ・担い手（リーダー）がいない ●住環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・大人も子どもも集まる所がない ・店がない、隣の家が遠い ・交通機関が不十分で、車がないと生活できない ●災害時における不安 <ul style="list-style-type: none"> ・逃げ道がない、一人暮らしの人の支援が・・・？ ●自然環境 <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシによって田畑が荒らされる
C 班	<ul style="list-style-type: none"> ●住民相互のつながりがある（近所が家族） <ul style="list-style-type: none"> ・皆で見守っている ・「顔をみない」「灯がつかない」と確認しあえる ・どんな人、年齢、親戚関係まで知っている ・雪かきなど、当たり前のように全員で協力する ●高齢者にとって住み易い <ul style="list-style-type: none"> ・各地域にサロンが増えてきた ・スーパーのカートを病院まで持っていける ・田畑や山の仕事があり、年をとってもボケている暇がない ●自然環境が良い <ul style="list-style-type: none"> ・静かで四季の景色が美しい 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者問題（数年後はどうなってしまうのか？） <ul style="list-style-type: none"> ・元気な一人暮らしの高齢者は、地域のサロンに参加しない ・老人クラブが減少 ・車の運転をやめると家族に言われるため、移動手段に困る（地域バスでないと外出できない） ●地元の組織が縮小している <ul style="list-style-type: none"> ・上手に世代交替ができていない ・婦人会、婦人消防が無くなった ●住民相互の交流が少ない <ul style="list-style-type: none"> ・外国出身の奥さんたちが地域とつながらない ・災害時に“陸の孤島”になってしまう
D 班	<ul style="list-style-type: none"> ●人とのつながりがある（何かあったら助け合える） <ul style="list-style-type: none"> ・雪かきなど全員で協力しあえる ・隣の人の姿が見えないと訪ねて聞いてくれる ・一人暮らしの高齢者宅の環境整備を手伝ってくれる ・近所の出来事が伝わりやすい ・登下校時に大人が子どもの見守りを行っている ●歴史、文化が守られている <ul style="list-style-type: none"> ・地区の歴史について、しっかり記録され伝えられている ・棒の手保存あり 	<ul style="list-style-type: none"> ●少子化問題 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ないため、祭りの行事を伝承していくことに不安 ・子どもが遊ぶのにも、如何せん数が足りない ●交通手段が不便 <ul style="list-style-type: none"> ・学齢期前の子どもの保育的指導をするための行き来する便がない ・スーパーが一箇所しかないため、車に乗れないと不便で困る ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の坂道が凍ってしまった時が心配 ・子どもが故郷に帰ってくる人が少ない